

クレアレポートはこうして作られる！ －身近な課題の先進事例をあなたに届けます－

ニューヨーク事務所

自治体国際化協会（CLAIR）では、海外各地域の地方行財政制度や各種施策、地域コミュニティの取り組みなど様々な分野のテーマの調査を行い、「クレアレポート」として報告書を作成し、自治体の皆さまへ情報提供しています。「クレアレポート」は、地方自治体から派遣されている海外事務所の職員によって作成されていますが、実際レポートのテーマ設定や調査などはどのように行われているのでしょうか。今回は、あまり知られていない、クレアレポート作成プロセスについて、筆者自身の事例をもとにご紹介したいと思います。

テーマ設定～宝探し

テーマ設定は最も重要であり、同時に最も困難な作業の一つです。テーマの探し方は、現地の新聞や情報誌、全国市長会など米国の地方行政関係者組織の年次総会で取り上げられた事例、あるいは自分が興味を持っている分野について独自調査をするなど、千差万別です。筆者の場合、全米カウンティ協議会の年次総会で良い出会いがありました。米国の雑誌” American City & County” の” County of the Year” の授賞式に立ち会う機会を得たのです。受賞者は、フロリダ州セント・ルシーカウンティのアドミニストレーター Faye Outlaw 氏。私は、彼女の穏やかな笑顔、謙虚で気取らない態度、そして意思を持つ強い眼差しに強烈な印象を持ち、続いて紹介された、彼女が成し遂げた財政再建の話にさらに衝撃を受けました。



全米カウンティ協議会年次総会で表彰される
Outlaw 氏（2011 年 7 月ポートランド）



Outlaw 氏（右）へのインタビューの様子
（2012 年 7 月セント・ルシーカウンティ）

セント・ルシーの事例はその後ずっと記憶に残り、次第に日本の自治体へも紹介したいと思うようになりました。それが優れた事例であったことはもちろんですが、私はある

意味彼女に魅せられたのだと思います。彼女のことを書きたい、それがテーマ設定の決め手でした。また、表彰された事実により、必ずそこに「宝」があると確信できたことも後押しとなりました。

事前調査～宝の山の発掘

調査は、事前調査と現地調査の二つに大別されます。事前調査はウェブサイトや文献で、調査対象団体の概要や事例の概略を調べるもので、現地調査の前に行うものです。事前調査の初期段階は、報道記事を中心に当たりましたが、なかなか核心を掴むことができません。そこで対象を公式ウェブサイトにシフトさせました。公式サイトには、組織や事業の概要はあっても、客観的な評価について知ることはできません。また、分量も半端ではなく、重要箇所がどこかも最初は分かりませんでした。しかし、できるところから始めようと心に決めて、地道に翻訳することを始めました。

いくつかの資料を翻訳するうちに、次第にキーワードが浮かび上がってくるようになり、資料を英文のまま読んでも、重要な部分を識別できるようになりました。当然翻訳の効率も良くなり、成功のポイントも掴めるようになりました。公式ウェブサイトこそ「宝の山」だったのです。

事前調査に必要なことは、地道な翻訳作業と資料の読み込みという、やる気と根気さえあれば誰にでもできることでした。事前に訪問先の概要を調べておくことは、焦点を絞ったインタビューに役立つとともに、先方への印象を格段に良くします。事実現地ではとても感謝され、非常に親身に対応いただきました。できることから始める、最初は無駄だと思っても、地道な積み重ねを続けていくうちに道が見えてくる、というのが経験として得たことです。

質問票の作成

事前調査をしていると、確認したいことが次々に浮かんできます。また、事実関係の確認は訪問前に終えておくほうが、当日のインタビューをより個人的な考え方、あるいは裏話などにフォーカスすることができます。そのため、質問票は事実確認用、聞き取り用に分けて作成しました。

- 1 訪問調査依頼の際に添付する大きなテーマの質問（約 40 項目）
- 2 先方から送付された回答に対する質問（約 40 項目）
- 3 聞き取り用の詳細な質問（約 200 項目）
- 4 聞き取り用の各関係機関への質問（全体で約 30 項目）

4については、初日のインタビューを中心に、そのまま読んでも使える質問文を用意しました。インタビュー初日は、カウンティ政府幹部、議会、市民予算委員会メンバーを前に公開インタビューをすることになったため、この「そのまま読んで使える」質問票はとても役に立ちました。

訪問先との関係構築

先方への訪問調査依頼は、上記 1 の質問票の完成後に開始しました。先方は自身の成功例が日本の地方自治体の注目を浴びたことをとても喜んでくれ、訪問先のアレンジやインタビュー対象者との調整など全て引き受けてくれました。私の訪問自体、カウンティにとっては住民の合意形成のためのプロパガンダの一つだったのかもしれませんが、しかし、カウンティの歓迎は私の調査をスムーズにしましたし、調査がカウンティの財政再建に貢献すれば、調査そのものの価値を高めることにもなります。現地では本調査に対する謝意として、カウンティ議会から謝辞決議を採択されるという光栄に預かり、最終的には、筆者の予想をはるかに超える高い評価を得ることとなりました。

現地調査～宝の真実

現地では、予算審議の聴講と、カウンティ議会や政府、市民予算委員会、各パートナー団体等へのインタビューを行いました。アポイント調整、当日のスケジュール管理すべてカウンティが行ってくれました。関係者へのインタビューでは進んだ住民自治の現実を目の当たりにし、事前調査では知りえなかった事実や、彼ら自身の評価について知ることができました。そして Outlaw 氏の人柄、優れたプレゼンテーション能力、議員やスタッフとの厚い信頼関係を実感として知ることができたのは大きな収穫でした。

各訪問先へは常にカウンティスタッフが同席し、知識の補足や、先方の話の解説のほか、メモ取りをしてくれることもありました。インタビューの成功は、偏に彼らの尽力の賜物です。十分な語学能力があれば、それに越したことはありません。しかし、こうした周りのサポートと十分な準備があれば、例え語学能力に自信がなくても、外国語によるインタビューは可能だと実感しました。

調査報告と原稿の執筆

現地調査後はすぐに、調査報告を英語、日本語で当事務所のウェブサイトへ投稿し、その後 CLAIR 本部のメールマガジンへも掲載しました。調査に対する謝辞決議の採択を行ってくれたカウンティへの謝意と、より多くの人にカウンティの人々の素晴らしい功績を知ってもらいたいと思ったからです。カウンティでも二度に渡り、本調査について地元ニュースウェブサイトに取り上げてくれました。

調査の報告後は、新たに判明した事実、より詳細に分かった事柄などを元に、目次の再構成を行い、原稿執筆に取りかかりました。ドラフトは現地調査前に完成させていたため、基本は加筆・修正というイメージです。原稿が完成したら、ストーリーに矛盾がないか、読ませたい内容がきちんと説明できているかなどを検証し、レポート全体としてのバランスを整え、完成となります。

使ってくださいクリアレポート！

こうした地道なプロセスを経て、自治体職員によって作成されるクリアレポートは、学識経験者による学術論文と比較すると見劣りするかもしれませんが、しかし、実務者レベルの職員が作成するからこそ、テーマやその視点は身近であり、紹介する取り組みは実用的で直接施策に反映しやすいのではないかと考えます。また、現在進行形の施策を取り上げるため、タイムリーな話題を提供できるのもメリットの一つです。海外の先進事例を自治体の皆さまと共有し、政策課題解決の参考としていただくことは、レポート執筆者の使命であり喜びです。まずはご興味のある分野のレポートから、是非ご一読ください！

(牧所長補佐 広島市派遣)

